

米 洲 行 日 誌 (12)

京都帝大教授 山 本 一 清

1937年7月24日(土曜日)

南部旅行中にハーバード大學のシャプリ教授から成るべく早く来るやうにといふ親切な手紙が届いてゐたので、急に出發することとし、3人は今朝11時發の汽車に乗つた。ボストン直行である。外氣は非常に暑いけれど、車中が冷房してあるので實に爽快である。バスでは、とても此の如き愉快的な旅行は出来ない！ 4年前、米國の汽車は自動車のために押されて不景氣のドン底にあつたが、今は設備の改善と賃金の引下げとによつて景氣を回復し、殆んどバスを打ち負かした觀がある。

16時ボストン市バクベイ驛下車、それから地下鐵によつて直ちにケンブリヂに行き、17時過ぎ天文臺にたどりつき、更に Evans 君の車に乗せられて25哩を突破し18時にオククリヂ村の新天文臺に着いた。こゝでシャプリ臺長始め、Menzel, Gibbs, Lee, Henny 諸氏に會ひ、設備の一部を臺長に見せられた後附近の Littleton 村のレストランで晩食を饗せられ、夜は一同、同じ森の中のメンゼル博士の夏宅を訪問、22時頃、構内の Agassiz Cottage に宿つた。

此の天文臺で今日見た器械は、“16吋”のメトカルフ屈折機、“3吋”ロス玉始め、4つのパトリール寫眞機、“24吋”反射望遠鏡と、其の大きい對物プリズム、“8吋”ベイチ寫眞儀で、皆數年前ケンブリヂの天文臺から移して來たものである。自分は4年前に一度此所へ來たことがあるが、其の時に比べて構内は樹木を昔のまゝにして、手入れしてゐない。之れは日光の輻射を避けるために必要なことである。

7月25日(日曜日)

昨夜のシャプリ臺長のすゝめに従ひ、今朝は特に早く起きて、先づ附近の高い火の見櫓に登つて、景色を見た。それからギブス君の地震計室を見た。室内は寒い程に感じた。次で、シャプリ臺長に“61吋”の大反射鏡を見せて貰つた。別に變つた所は無かつたが、此の大きい器械は將來活躍するものと思はれる。



ニ ヲ ヨ ー ク 市 の 景

10時、臺長夫妻や臺員たちに別れ、メンゼルの車に乗せられて、一旦ボストン市バクベイ停車場に歸り、驛に預けてある荷物を受取り、改めてケンブリヂ市のコンチネンタル・ホテルに投宿した。

15時、自分はチャニング街のサートン博士を訪ひ、一別以來の挨拶を述べ明日を約して辭去した。

本日附のニウヨーク・タイムス紙に、去六月の皆既日食をベル1の山中で畫いた故 Stephens 氏のコロナや、南天の畫が出てゐる。

7月26日(月曜日)

ハーバード大學天文臺では此の頃一種の夏期講習會を開いてゐる。さきにシヤブリ臺長が自分に態々手紙をよこして“早く来るやうに”とすすめたのも、要するに此の講習を來觀せよといふことであつたのである。今日は10時45分からピツパグの Bryan O'Brien 博士が成層圈の講演を始めるので、自分も聽いた。今日のは諸論である。

正午、約束によつて、大學のワイドナ圖書館にサートン博士を訪ね、理學史の書籍など見せて貰つた後、更に同氏宅に招かれて、晝餐を饗せられ、暫く談笑した。此の理學史の大家に、日本の理學史家が二三人しか知られてゐないのには驚いた。15時歸宿。

7月27日(火曜日)

正午、ハリウッド廣場で書物をあさつてゐるうちに、Percival Lowell の Occult Japan と Tycho Brahe の小説とを見つけた。

16時15分から大學天文臺で、シャプリ臺長を座長とする“Hollow Square Conference”があるので、柴田君と二人で出席したが、開會前、南庭でティーパーティあり、久しぶりで Leon Campbell 氏に會つたので、神戸の岡林君の新星發見に對する表彰をすゝめておいた。

Conference のすんだ後、Whipple 君に招かれ、吾々3人と、最近到着した若き Schwarzschild 君と、五人でボストンヘスキヤキを食べに行つた。思ひがけない御馳走で、近來の傑作であつた。暑くはあつたけれど。

7月28日(水曜日)

毎日忙しいので、今朝早く G. S. Phelps 氏に電話で挨拶をして、9時にボストン北停車場發の汽車で、3人打ち揃ひ、カナダに向ふ。日没頃 Rouse Point で税關を通過、19時10分にモントリヲル着。驛前のクキンス・ホテルに宿つた。

7月29日(木曜日)

モントリオルはカナダ第一の都會で、英語と佛語とが共に用ゐられる珍しい市街であるが、此所には天文臺が無いので、午前中からサイト・シーイング・バスに乗つたりして、市の内外を一通り見物し、15時40分發、19時オタワに着、シャトル・ロリエ・ホテルに投宿した。

7月30日(金曜日)

朝8時、日本公使館付海軍中佐竹内氏夫人來訪。案内されて、郊外のドミニオン天文臺へ行く。臺長 Stewart 博士及び De Lury 博士に會ひ、研究設備を參觀した。此の天文臺は國立中央天文臺で、歴史は古く、子午環など備へて基本觀測をやる外に、氣象や地震の觀測もやつてゐるし、又、De Lury 氏は變星や、太陽自轉の分光研究等をやつてゐる。この De Lury 氏は又太陽活動と地上の諸現象との相關を餘技として研究してゐる。建築は極めて古いが、とにかく、或る意味で充實してゐる。

竹内夫人の案内で、11時には議事堂を見、其の後、市の内外をドライブした。さて、15時にはオタワ發、20時トロントに着いて、ヲリカー・ハウスホテルに宿

る。

何だか、毎日の新聞によると、日支關係が非常にむつかしくなつてゐる。

7月31日(土曜日)

午前中は自由に市街を散歩した。14時から電車で北郊リチモンド丘へ行き、近年出来た大天文臺を參觀する。4年前、ヰクトリヤで會つた Hogg 博士が此所へ移つて來てゐて、今日は迎えてくれた。大ドームには口径“74吋”といふ世界第二の反射鏡が据えられてある。英國クラブ製であるが、あらゆる點でヰクトリヤの“72吋”以上である。専ら恒星の分光研究をやつてゐる。此の天文臺は3つのドームがあるが、一つは何の設備もない。他の一つには臺長 R. K. Young 博士(今日は不在)自作の“19吋”反射鏡が置かれてある。研究室も、工作室も新しくて、廣い。

17時、吾々3人はリチモンドヒル村の Hog 氏宅に招かれ、晚餐を頂き、20時半歸宿。

新聞によれば、數日前パナマ沖の大西洋にパナグラの飛行機“Santa Maria”が墜落して乗客も乗員も全部死んだ由。此の飛行機は自分が七月初めにリマからコロンまで乗つたものである！尤も、墜落の原因は電撃によるものらしい。

8月1日(日曜日)

7時半トロント發、CN 鐵道により10時米國ナイアガラ驛着。荷物を預けて置いて、瀧の見物に出かけた。眞夏で、日曜なので、一般の見物客は非常に多い。米國側の景色を見た後、國際橋を渡つて、カナダ側の景色も充分に見、寫眞など撮る。

15時ナイアガラ發。ニウヨーク・セントラル鐵道で、21時クリーヴランドに着。ホテル・クリーヴランドに投宿した。此所は1922年に自分は一度來たことがあるのだが、驛は全く新築され、下町の様子も一變してゐる。

8月2日(月曜日)

午前中は自由に市中見物。柴田君はピツバーグへ、堀井君はデラエア天文臺へ參觀に行く筈であつたが、朝ね坊して、何れも駄目。

12時20分クリーヴランド發、乗り換へなしに、16時デトロイト着。YMCA・ホテルに宿泊。今夕當地ヘカトリクの大僧正が着任するので、驛前のローゼ

ルト廣場は觀迎騒ぎで賑はつてゐる。

8月3日(火曜日)

レキ・アンゼロス畔のマクマス天文臺を訪ねるつもりで、午前中いろいろ行路を研究したが、幸ひ、マクマス氏にも、Hubert 氏にも電話が通じて、打ち合はせが出来た。そこで13時04分デトロイト發の郊外バスに乗つて、先づ自動車製造で有名なポンテヤックに行き、其の郵便局舎まで、天文臺からベテト博士に迎えに来て貰つた。

此の天文臺は、名義上はアンア・ボア天文臺の一部となつてゐるけれど、實際は全く獨立の私立天文臺みたやうなもので、設備も計營も皆マクマス、フーバート諸氏の私費で成り、特に之れは創立の最初から活動寫眞機巧を天體研究に應用する技術を専門にしてゐる。言はゞ費府市外のクク氏の私立天文臺と並び稱せられるものである。研究室は、太陽塔と“十吋”赤道儀ドームとであるが、先づ太陽塔の中には、頂上の大シロスタトから導入せられる日光によつて分光太陽像や、プロミネンス像を間斷なく撮影してゐる。又、ドーム内の赤道儀でも太陽や諸遊星、月、彗星等の運動や變化を撮つてゐる。天氣が良く、殊に、キルソン山あたりと違つて、日出から日没まで、シーイングが終日良好であるため、毎日の連續撮影が獲られる。ベテト氏は顧問の格で、毎年、夏の間、キルソン山から此所へ出張して來て、仕事を主裁してゐる。16時頃、マクマス氏もデトロイトから天文臺へやつて來て、吾々を接待されたが、氏は決して單なる實業家のアマチュア天文家といふのでなく、實際、殆んど専門家らしい知識と、手腕と、熱心を持つてゐられることが明らかである。研究室參觀後、マクマス氏は近くの別荘のパラードで、プロミネンスの活動寫眞一卷を映寫して見せられたが、實に見ごとなもので、噴出型プロミネンが太陽面上の活動引力部に吸ひ込まれて行く有様が極めて明瞭に現はれて、誠に誰の眼にも convincing である。こんな天文臺が、我が日本は言ふに及ばず、全世界に四五ヶ所出來て、連絡したならば、太陽面上の諸現象は完全に把握できると思ふ。感嘆、之れを久しうした！ 尙ほ、此のマクマス氏等が獨創考案した赤道儀の自働裝置も立派で正確なものである。——歸りは又送られて、17時45分ポンテヤック發、19時デトロイトに歸着した。

8月4日(水曜日)

8時20分にデトロイト中央停車場發、9時半アンナボアで途中下車、ミシガン大學天文臺を訪ねる。丁度 H. D. カールテス臺長が迎へて下さつて、暫く日食の土産ばなしなど。こんどの日食に、カールテス氏はワシントン天文臺組の中に入つてカントン島へ行く筈であつたが、今年初から病氣に冒されたため、参加されなかつた由である。

カールテス氏は、まだ少しやつれてゐる身體であるが、吾々を大ドームの中に案内して、口径“ $37\frac{1}{2}$ 吋”の反射鏡を見せられた。此の天文臺では目下カールテス臺長自ら新天文臺に据え付ける口径“ $97\frac{1}{2}$ 吋”の大反射鏡の設計を進めてゐられる。鏡面はコニング硝子會社で既に出来上つた由で、今は器械部の設計と資金調達中であるが、之れを氏は念頭に置かれてゐるため、“此の $37\frac{1}{2}$ 吋機は最早や舊式で駄目です”と繰り返してゐられるが、しかし、決して其んなものではない。カールテス、マクラフリン、ルーファス諸氏によつて絶えず、恒星のスペクトル研究に用ゐられてゐる優秀機である。カールテス臺長の今一つの誇りは、さきに南アフリカのブルームフォンタインに設立された故ハッセル臺長記念の天文臺が、最近、其の實際上の經營を南阿の政府が引き受けることになつた由で、之れは國際學術交歡上の一佳話であるばかりでなく、又、實質上からも、ミシガン大學天文臺の費用を大に節約し得ることとなつたわけである。

11時頃、夏期講義を終つたばかりのルーファス教授が天文臺に歸つて來られ、吾々を見て、大喜び、2年ぶりの挨拶をなし、尙ほ、ルーファス教授が此頃研究觀測中のカシオペヤ座ガ星のスペクトル中に水素のバルマー線が30本も現はれてゐるとて、其の原板を見せられた。

此の後、吾々はルーファス氏夫妻の親切的な接待で、先づ大學集會所で食事を頂き、會々山極氏に御目にかゝつた後、郊外へドライブに出かけ、大きい競技場や、新天文臺敷地などを見た。それから又大學へ歸り、ルーファス氏が近頃或る本屋で發見されたといふ元の天文家ワトソンの若い頃の日誌帳を圖書館で見せて貰つた。碩學ワトソンも、二十臺の若い頃には、“世界の大學者”だとか、“Astronomer Royal”だとかを肩書きにして、戯れ書きしてゐるのが面白かつた。

17時、見送られてアンナボア驛發、20時半シカゴ市セントラル停車場着、食事して、22時頃 YMCI のホステルに入つた。

8月5日(木曜日)

午前中、下町へ行つて、取り敢へずカリフォルニア行きの汽車寢臺を買つた。夏期旅行が大繁昌で、日曜朝の汽車は満員のため、止むなく土曜の夜に出發とする。

午後、自分獨りで海岸のアドラ・プラネタリウムを訪ねたが、所長フォクス博士は最近にジャクソン公園に新設された理工學博物館長に轉任したとかで、こちらの方では所長事務取扱ひベネト女史に會ひ、陳列品等をゆつくり見せて貰つた。4年前にも此所へ來たことがあるので、大抵は知つてゐるものが多い。時間の都合上、ドーム内には入らなかつた。

昨日、キルソン山天文臺で、ハブル博士が13等級の一新彗星を發見した由、新聞に出てゐる。之れが“100吋”大反射鏡で發見された最初の彗星だといふ!!

8月6日(金曜日)

朝起きして、7時20分シカゴ北西停車場發の汽車に乗り、10時20分キリヤムスベイ驛着。バンビ1スブルック教授に迎えられた。ベイは夏の盛りで、湖岸は賑はつてゐる。ヤ1キ1ス天文臺に行く途上、バンビ1教授は車を暫く止めて、道端に近頃作られた故フロスト臺長記念の小公園を見せられた。

天文臺では、Chandrasekhar, Kuiper, Elvey, Miss Calver, 臺長 Struve, Moffitt, 技師 Ridell, Sullivan 女史等々、昔しからの名じみの人々や新しい友人たちに紹介せられる。實に此の天文臺は、近來益々國際的色彩が濃厚である。バンビ1教授は先づ大“40吋”赤道儀の構造の詳細と、其のドームの隅々まで案内され、柴堀兩君も全く満足の體である。屋外の景色も勿論良い。今この天文臺では、遠くテキサス大學の名で建設中の口径“82吋”反射鏡の細部の設計と工作とに全力を集中してゐると言つても宜い。バンビ1教授は此の新機械の接眼部に置かれる星像撮影装置と、測微尺とを見せられ、又、Moffitt 氏は複雑な分光寫眞機の構造を見せられた。以前、かの8米ドームの中にあつた“12吋”屈折望遠鏡は今既にテキサスの Fort Davis 山上に送られてある。

今一つ小ドーム中にある“2呎”反射鏡は近頃多少改良された由。又、ブル1

ス寫眞望遠鏡は、ロス氏の考案で、昔パイクハースト教授が用ゐた UV カメラ其の他の部分品が附加せられ、總計6個の寫眞玉がマウントされてゐるといふ。時間が無くて、此の2つは遂に見られなかつた。

正午、吾々3人はバンビ教授の宅で午餐を饗せられた。十數年前、自分が長く滞留してゐた此の家の此の食堂である。教授夫妻や、ミス・バンビ女史も元の姿であるが、只、令嬢2人と令息とは全く大人になつて了つて、昔の面影は無い。幸ひ、夏期で、此等の全家族に皆御目にかゝれたことは大きい喜びであつた。

食後、バレット老教授夫妻を訪ひ、フロスト未亡人にも會ひ、又ストルベ臺長及びエル中1氏とは黄道光問題で可なり長い間意見の交換をした。最近この Elvey 氏が花山ブレテンに載つた東亞天文協會の黄道光觀測報告のみを材料として、黄道光の長期變光を發見し、之れを天體物理雜誌に發表したことを知り、其のコピイを貰つた！ 喜びでもあり、驚きでもある。

最後にバンビ教授に吾々は案内されて、ジェネヴ湖岸を散歩し、それからハイズード驛まで見送られて、15時04分發の北西鐵道列車に乗り、18時半シカゴに歸つた。

8月7日(土曜日)

正午頃、自分は獨りでジャクソン公園の新建設中の理工學博物館にフォクス館長を訪ねた。幸ひ居られて、挨拶を交換し、内部參觀の便をはかられ、御自慢の人造石炭坑の中も見た。フォクス氏は、時節柄、支那に對する日本の工作を自分の面前で批評されたが、此の人は只新聞記事だけしか知らないらしい。

20時、求めに應じて、Y. M. C. I. の講堂で日本人諸氏のために日食を中心とした天文講演をした。其の後、直ちに吾々3人は出發し、20時45分デヤボーン停車場發のサンタフェ線“Scout”列車に乗つた。

8月8日(日曜日)

汽車は朝7時半カンサス着、同10時發車する。柴堀兩君は此の停車時間中に市内の見物をしたいが、自分は暑さのため、車内にゐた。とにかく、今日のアメリカの汽車は、夏の暑さを完全に征服して了つた感がある。日本でも何時かは此の通りになるだらう。

8月9日(月曜日)

16時、フラグスタフ着、驛頭で、ロエル天文臺長 V. M. スライファ博士の出迎えを受け、直ちに其の車で、火星丘上の天文臺に案内せられた。臺長室で、弟(E. C.)スライファ氏にも會ひ、吾々はペル1の日食の土産話などした。此の天文臺の人々は今までにも度々日食觀測の経験があるので、話ははづむ。それから、臺長の案内で、例の冥王星の發見に用ゐられた“十三吋”寫眞機や、火星觀察と恒星分光研究とに用ゐられる“廿四吋”大赤道儀とを見、故ロエル博士の墓にも詣でた。

夜は Monte Vista Hotel といふ気持ちの良いホテルに宿る。

8月10日(火曜日)

昨日スライファ臺長の幹旋で雇ひ入れた Nava Hopi Auto の車で、朝8時から町の東郊へドライブし、有名な隕星坑を見に行く。かねて寫眞などで知つてはゐたが、實地に見ると、此の巨大な坑は實に不思議な謎らしい怪である。三人で、いろいろ探險して見たが、意外に深く、時間も無くて、底までは下りられない。記念のため、大小の隕鐵を3つばかり買つて、フラグスタフに歸る。

午後は、同じ車で、こんどはグランド・カニオンを見に行く。途中は全くアリゾナらしい砂漠で飽き飽きしたが、15時過ぎカニオン畔の El Tovar Hotel に到着。直ちに所々の見學と撮影などした。之れも誠に現代世界の七不思議に算へられて宜いものの一であるが、見物するのに、馬や徒歩は舊式であつて、飛行機が最も良いと思はれる。Hopi House とか、Bright Angel Lodge なども面白い。

18時、バスでカニオン發、20時にキリヤムス驛着、夕食後、驛前の廣場でフィンスラ彗星を北斗星の近くに見る。それから丁度、22時に到着した西行きの列車に乗り寢臺に入る。

8月11日(水曜日)

汽車は今朝1時半頃にキリヤムスを出發したらしい。今朝、車中で眼がさめて見ると、吾々は美しい南カリフォニヤの野を走つてゐる。暑さも去つた。

13時半、ロスアンゲレス着、東一條のミヤコ・ホテルに入る。長田鶴浦兩氏來訪。丁度、日米學生會議に出席した日本學生が40名ばかり當市に来てゐる。

が、今夜西本願寺で一行の演説會があるといふので、聴きに行く。

8月12日(木曜日)

午前中、宿に長田鵜浦兩氏、及び、滿鐵ニウヨーク支店長武田胤雄氏來訪。午後は會員高村長田兩氏等と、ハリウド郊外のグリフス丘上にあるプラネタリウムにアルタ臺長を往訪し、今後の打ち合はせなどする。それから更に五人打ち揃つてパサデナに行き、キルソン山天文臺を訪ね、アングソン博士の案内で工學院に行き、目下工作中的の有名な“二百吋”大反射鏡や、其の十分の一模型、光學試験室、及び太陽研究用の水平望遠鏡など、實に夥しく驚くべき諸設備を見た。

18時、當地の教役者會員たちの晚餐會に招かれ、21時よりは日本人商業會議所に於ける學生代表座談會に臨む。

8月13日(金曜日)

朝10時、グリフス天文臺に於いて日本學生代表一行と會ふ。11時半、天文臺の Cleminshow 氏に案内せられ、キルソン山に登り、先づ山上ホテルにて少憩、午餐。其の後、天文臺に行き、陳列室、“百吋”機、研究室等を參觀。——自分は圖らずも15年ぶりでカナダのクリステ氏に會つた。

17時半、歸宿。20時、合同教會にて武田氏の支那問題に關する講演をきく。

8月14日(土曜日)

朝、柴堀兩君は長田政二氏の案内で Lion Farm や、Alligator Farm 等を見に行く。自分は鵜浦氏の案内で11時から再びパサデナに行き、キルソン山天文臺オフィスにて Seares, Joy 兩博士に會ひ、暫時談笑。其の歸途、ミラン街のミス・バスビシュルを訪ねたが、不在。

17時、鵜浦氏と共に木崎氏方に於いて晚餐を饗せられた。

山 本 進 氏

去る5月6日臨時召集令を受け、同16日朝10時、多くの親族や友人たちに見送られて、伏見輜重兵第16聯隊第2中隊第5班に入營されました。

會員木村恒二郎氏(松江市石橋町繩手)は、去る3月30日の戰鬪にて名譽の戦死を遂げられた由、御實家より通知がありました。